

そうだったのか!

学習評価

先生方の疑問に識者が答えます!

今号の
テーマ



「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、具体的に何を評価すればよいのでしょうか。

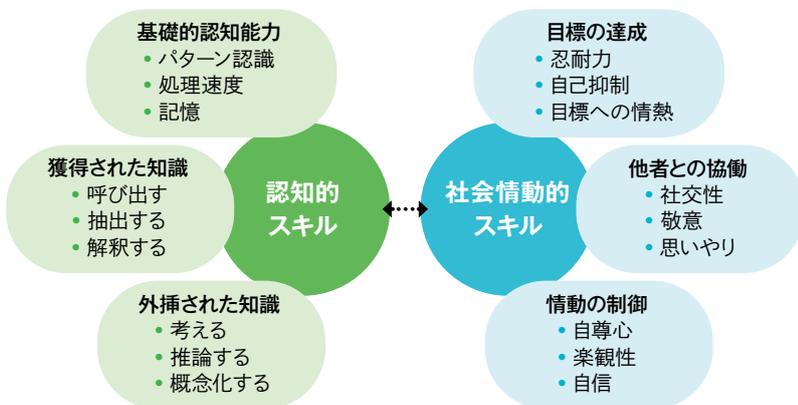


性格や行動面の傾向ではなく、「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けた学習者の意思的な側面を評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力等」の育成のために、自分の学習状況を把握し、自分の学習を調整しながら学ぼうとしているかといった意思的な側面を評価することが求められます。すなわち、挙手の回数やノートの取り方など、性格や行動面の傾向を評価するものではありません。

文部科学省は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、「粘り強い取り組みを行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の2つの側面を評価することであると示しました。ただ、それらの具体的な態度や姿は、明確に言語化する必要があります。そこで参考になるのが、OECDが示した「社会情動的スキル」(下図)や「性格特性BIG5」(*1)です。OECDは、忍耐力などの「社会情動的スキル」が高まれば、知識・技能を獲得・発揮するための「認知的スキル」も高まると提起しており、「社会情動的スキル」は、「性格特性BIG5」である「誠実性、外向性、協調性、開放性、安定性」の5因子に基づいて考案されています。例えば、協調性は他者と協調する態度、開放性は他者との違いや多様性を尊重する態度などを指しますが、それらは先生方がこれまでも生徒に育成してきた学習態度だと思います。「社会情動的スキル」や「性格特性BIG5」を踏まえると、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について捉えやすくなるのではないのでしょうか。

● OECDによる「認知的スキル」と「社会情動的スキル」のフレームワーク



※ OECD / 池辺浩子・宮本晃司 ベネッセ教育総合研究所訳『家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成 国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆』を基に編集部で作成。

*1 アメリカの心理学者ルイス・R・ゴールドバーグ氏が提唱した、個人の性格に関する学説。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価



回答者

國學院大學
人間開発学部初等教育学科 教授
田村 学

たむら・まなぶ 専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官などを経て、現職。著書に、『学習評価』(東洋館出版社)など多数。



「主体的に学習に取り組む態度」は、どのように評価すればよいのでしょうか。



生徒に期待する姿を具体的に言語化し、フォーマットを参考に評価規準を作成してみましょう。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、先ほど示した「社会情動的スキル」や「性格特性BIG5」をよりどころに、教科や科目、単元、学習活動において、生徒に期待する学習態度を具体的な言葉にすることが重要です。

その参考資料として作成したのが、下のフォーマットです。学習活動・場面において期待する態度が入る「△△」は、「性格特性BIG5」の5因子を踏まえた例（下図右）も参考にして考えるとよいでしょう。例えば、担当教科の学習における「誠実性」とは何かを考えてみると、理科では「データの数値に真摯^{しんし}に向き合って」、体育では「ルールやマナーを厳守して」などと、各教科の特性が表れるものになるはずで、その評価規準を達成

できている場合を「B」とすれば、それが達成できていない場合が、「C」となります。「A」は、「△△」を複数設定するなどして、どちらも達成できているかどうかを評価する方法などが考えられます。

そうして作成した評価規準を用いて、時間を軸にして生徒の変容を捉えたと評価しやすいでしょう。例えば、単元の始めと単元の終わり、生徒の自己評価やパフォーマンス課題（*2）などから学習態度の変容を見取る方法が考えられます。生徒が成長を実感する機会や、学習の動機づけになることも期待できます。文字や絵、画像、動画など、評価材料が形に残っていることは、総括的評価をする上でも有効です。

●「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定フォーマット

○○について（おいて）、△△しながら（して）、□□しようとしている。

- ：活動や場面、状況など
- △△：態度に関する非認知系の知識など
- ：「主体的に学習に取り組む態度」として表れる行為

例1 レポートの作成において、友人の考えを参考にしながら、自分の考えをまとめようとしている。

例2 グループ活動において、互いのよさを生かしたり、独自のアイデアを発揮したりしながら、問題解決を図ろうとしている。

※田村学『学習評価』（東洋館出版社）を基に編集部で作成。

●「性格特性BIG5」を参考にした△△の例

誠実性	何度も粘り強く繰り返し／ゴールや目標に向かって／計画を着実に遂行し など
外向性	自ら進んで取り組み／自分の考えをはっきりと伝え／様々な人とかかわり など
協調性	互いのよさを生かして／それぞれの思いをすり合わせて／相手の立場を尊重して など
開放性	異なる考えを参考に／新たなことに挑戦して／独自のアイデアを発揮して など
安定性	いつも変わらずに／誰に対しても同じように／状況に影響されることなく など

※田村学『学習評価』（東洋館出版社）を基に編集部で作成。



次の単元の学習活動・場面において生徒に期待する態度について言語化し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を作成してみましょう。



作成した評価規準を、同じ科目を担当する教師に見てもらい、文言の適切さや妥当性を語り合ってみましょう。

*2 レポートやプレゼンテーションなど、様々な知識やスキルを総合して使いこなす（活用・応用する）ことを求めるような、複雑な課題。